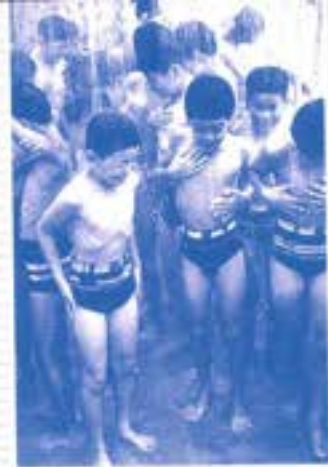




伝えたい風景、残したい記憶。

ありがとう
丸山



Thanks Maruyama



神戸市立丸山小学校

校章のいわれ

円 形：丸山の丸
 緑の山の形：緑に囲まれた丸山
 赤い山：小学校の小
 白抜きのW：神戸市章
 残部の青色：神戸の港



丸山小学校校歌

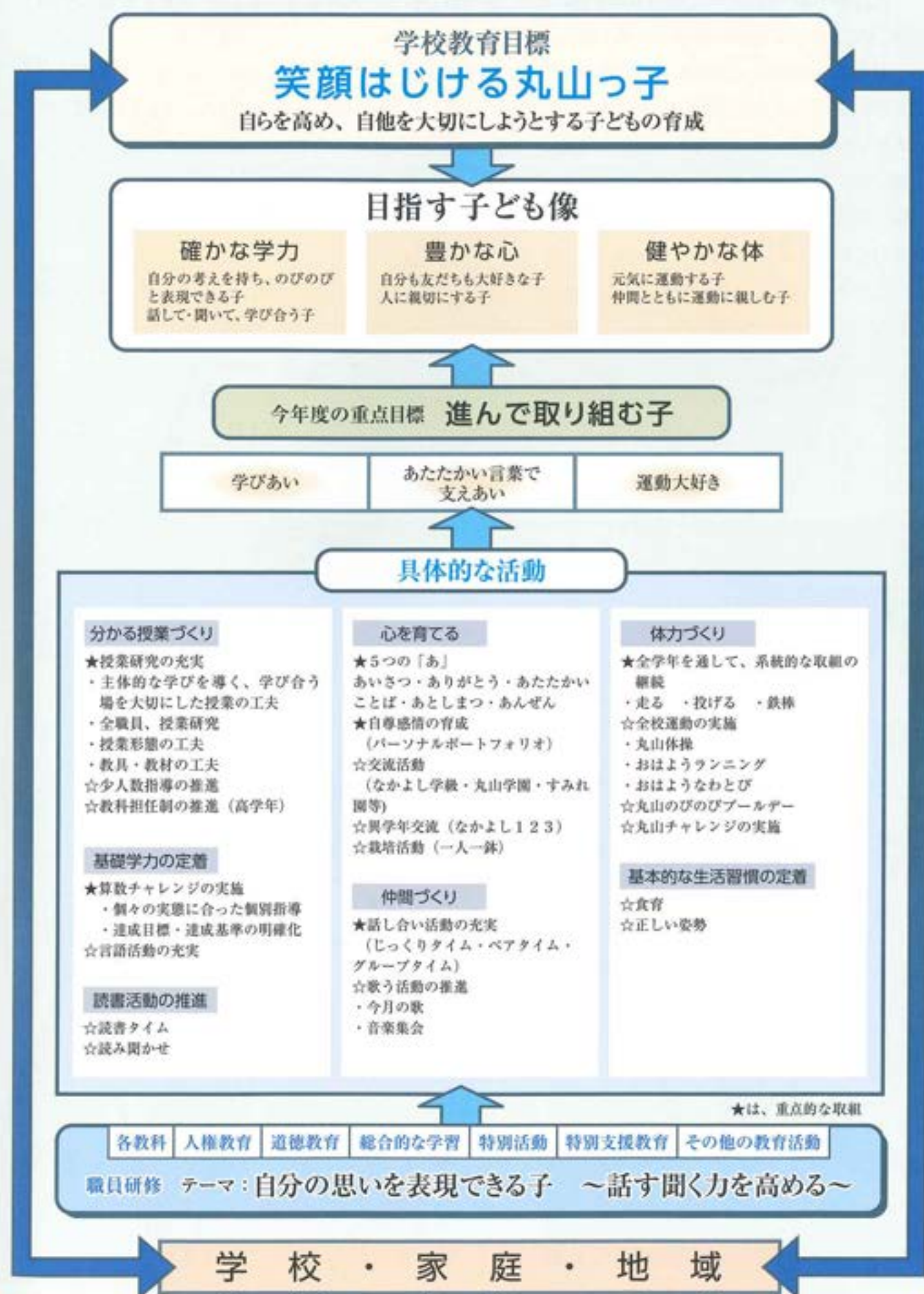
■作詞 今井 広史
 ■作曲 増田 平雄

一、ひよどり越の 峯ちかく
 みどりの中に 育つ子は
 小鳥のように 朗らかに
 希望の丘を 越えて行く
 明るい 丸山小学校

二、荻藻の川の せせらぎを
 朝夕きいて 励む子は
 働く手足 健やかに
 光の空へ伸びていく
 たのしい 丸山小学校

三、神戸の港 見下ろして
 こころと技を 磨く子は
 七つの海の ゆりかごに
 果立ちの歌を 歌おうよ
 みんなの 丸山小学校





地名のいわれ

丸山小学校の屋上から、南の方角を眺めると、目の前に丸い山（丸山観音がある山）が見えます。この山は、どこから見ても丸いので、昔から「丸山」と呼ばれていました。

昭和の初めごろ、この「丸山」と呼ばれていた丸い山の周り（今の丸山町あたり）には、大きな遊園地がありました（小さな動物園もありました）。また、そこは桜の名所でもありました。そして、大きな池も近くにあり（今の丸山学園のあたり）、そこでは貸ボートもやっていました。そのうえ大日温泉という天然の温泉も湧いていました（今のコミセンあたり）。だから、「丸山」のまわりには、旅館や茶店が立ち並び、町からの観光客でにぎわっていました。「丸山」の南斜面には、「丸山遊園」というネオンサインが、かけてあり、南のまちからはそれが美しく輝いて見えたそうです。

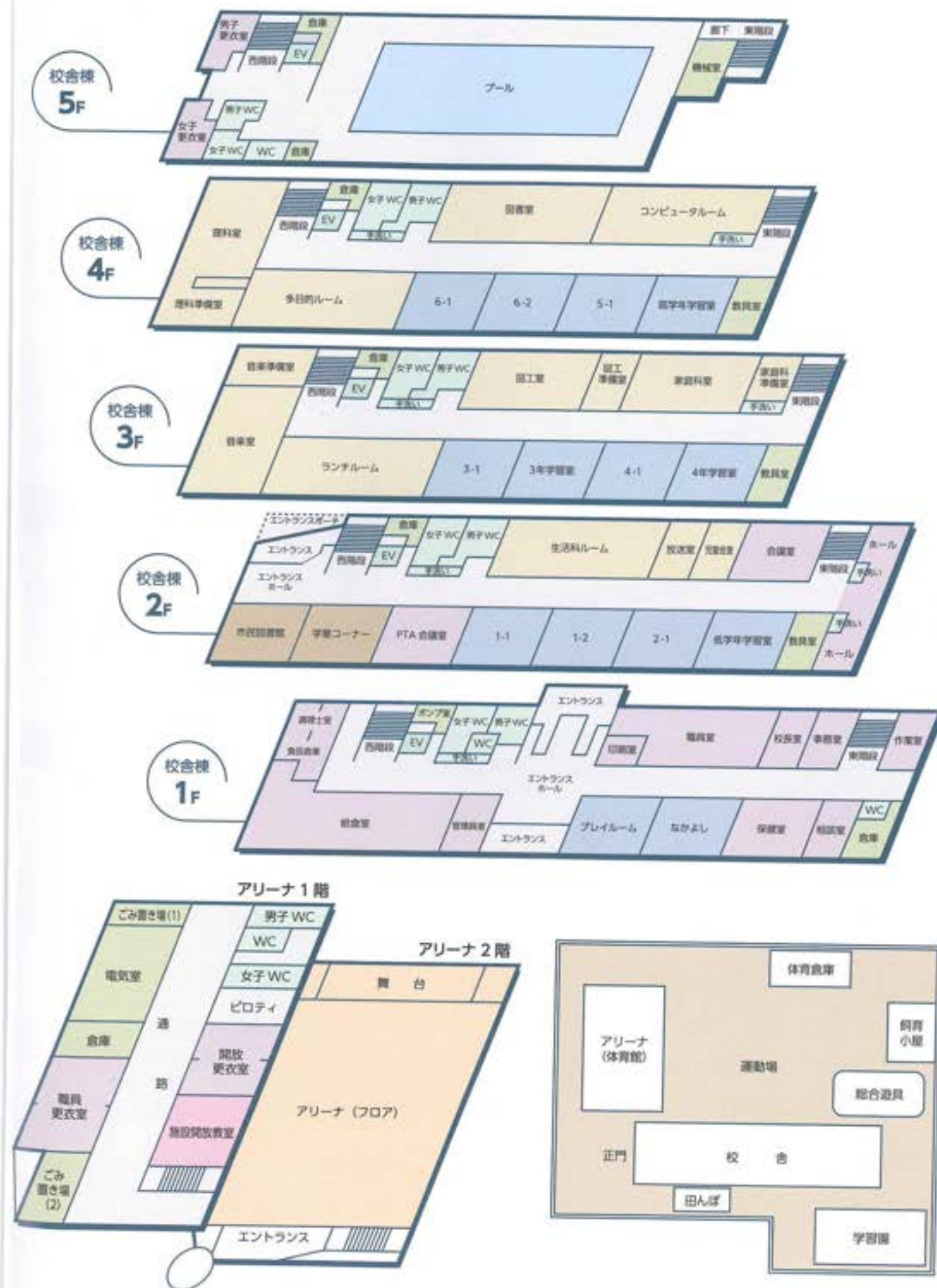
このように「丸山」を中心に大きくなっていったので、私たちのまちは「丸山」と呼ばれるようになりました。

校区図



校舎・教室配置図

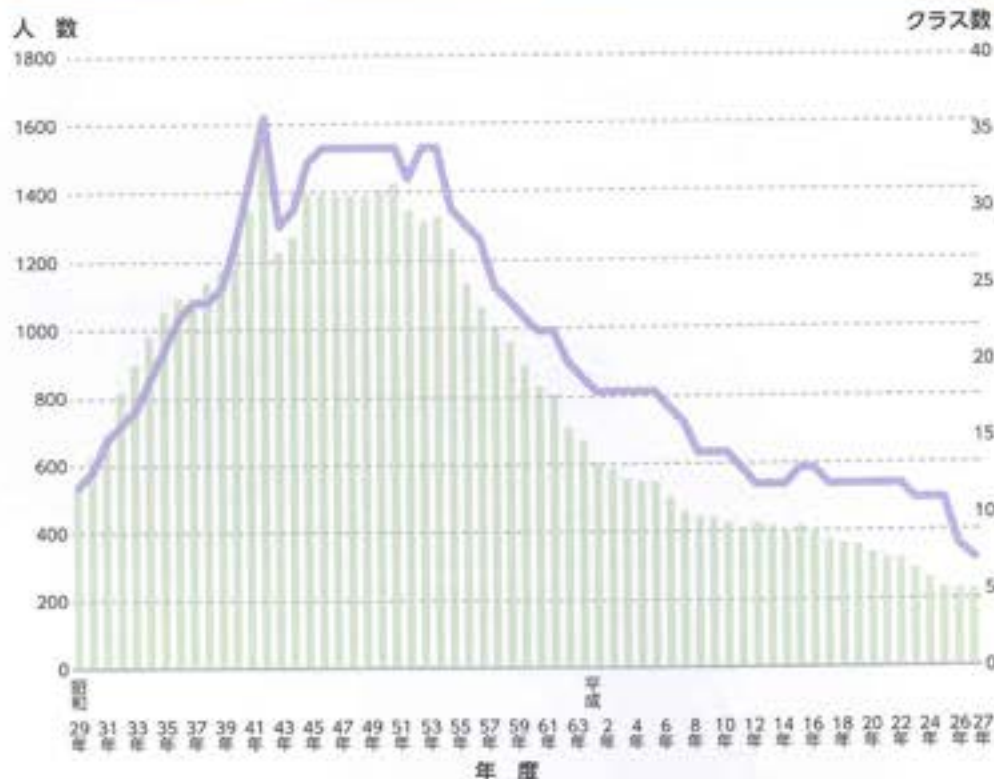
神戸市立丸山小学校



児童数の変遷

年度	児童数	学級数
昭和 29 年	532	12
30 年	624	13
31 年	699	15
32 年	817	16
33 年	899	17
34 年	982	19
35 年	1052	21
36 年	1092	23
37 年	1076	24
38 年	1136	24
39 年	1177	25
40 年	1279	28
41 年	1349	32
42 年	1595	36
43 年	1227	29
44 年	1271	30
45 年	1392	33
46 年	1395	34
47 年	1392	34
48 年	1395	34
49 年	1389	34
50 年	1402	34
51 年	1424	34
52 年	1344	32
53 年	1314	34
54 年	1327	34
55 年	1230	30
56 年	1134	29
57 年	1064	28
58 年	1007	25
59 年	960	24
60 年	890	23
61 年	833	22
62 年	805	22
63 年	707	20
平成 元年	669	19
2 年	606	18
3 年	586	18
4 年	556	18
5 年	546	18
6 年	547	18
7 年	502	17
8 年	459	16
9 年	442	14
10 年	438	14
11 年	425	14
12 年	411	13
13 年	426	12
14 年	414	12
15 年	398	12
16 年	415	13
17 年	397	13
18 年	374	12
19 年	365	12
20 年	359	12
21 年	337	12
22 年	320	12
23 年	318	12
24 年	287	11
25 年	260	11
26 年	232	11
27 年	228	9

児童数とクラス数の移り変わり



平成 27 年度 児童数とクラス数

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	なかよし	計
学級数	2	1	1	1	1	2	1	9
児童数	男 子	28	16	19	15	24	21	124
	女 子	15	19	12	11	15	30	104
	合 計	43	35	31	26	39	51	228

平成 27 年度 神戸市立丸山小学校担当配置

校 長	山崎 将		
教 頭	寅屋 誠		
学 年	1 組	学 年	2 組
1	山内 直美	1	泉 雄大
2	木村 泉	2	
3	澤 正樹	3	
4	佐々みどり	4	
5	野崎啓一郎	5	
6	武藤 太平	6	佐伯 美佳
なかよし	西村 浩子	なかよし	
新学習システム	佐竹 和恵		吉本 邦子
音 楽	岡本智香子	図 工	大谷佐和子
養 護	国森まさみ	栄 養	菅原 澄子
事務職員	浜田 和彦		
管理員	中野 孝也	中畑 太志	
調理師	松本 知己	松浦 俊太	
生きる力学力 向上支援員	庄田 恵之	カウンセラー	藤原 睦美
サイエンスアシスタント	大畑 守男	図書館司書	石井 恵美

歴代校長



初代
宮田 静吾
(S29.4 ~ S33.3)



2代
波多野 正雄
(S34.4 ~ S36.3)



3代
伊藤 重夫
(S36.4 ~ S39.3)



4代
大坪 博
(S39.4 ~ S44.3)



5代
柳井 寅一
(S44.4 ~ S46.3)



6代
吉田 哲司
(S46.4 ~ S49.3)



7代
高寺 孝和
(S49.4 ~ S53.3)



8代
藤原 敏
(S53.4 ~ S55.12)



9代
南上 正幸
(S55.12 ~ S59.3)



10代
萩野 隆雄
(S59.4 ~ S62.3)



11代
金田 竹三
(S62.4 ~ S1.3)



12代
北 義和
(H1.4 ~ H3.3)



13代
小林 佑示
(H3.4 ~ H5.3)



14代
熊谷 幹夫
(H5.4 ~ H8.3)



15代
近藤 慎治
(H8.4 ~ H12.3)



16代
土肥 秀明
(H12.4 ~ H16.3)



17代
井上 香代子
(H16.4 ~ H19.3)



18代
高木 政雄
(H19.4 ~ H22.3)



19代
福田 淳子
(H22.4 ~ H26.3)



20代
山崎 将
(H26.4 ~ H28.3)

歴長 PTA 会長

初代 上村 儀作	8代 森 茂太	15代 宗本 健一	22代 宮本 恵史子	29代 溝口 美香代
2代 宗本 孝	9代 田部 久用	16代 安沢 誠	23代 稲村 義昭	30代 小川 有多子
3代 上村 儀作	10代 横手 正欣	17代 中村 俊幸	24代 宮崎 義則	31代 柴垣 正典
4代 内藤 保	11代 米澤 塚平	18代 枇杷原 穂	25代 市川 裕美子	32代 谷口 律子
5代 沖田 次平	12代 栗津 弘之	19代 大塩 高直	26代 原田 啓子	
6代 坂本 七蔵	13代 安富 永次	20代 西田 信也	27代 服部 祐子	
7代 青山 曉二	14代 森下 重幸	21代 宮崎 義則	28代 尾谷 幸男	

学校の歩み

1. 沿革の系統図

明治

駒野小(明6) — 真野小(明6) — 長田小(明6) — 西野小(明6) — 真陽小(明20) — 長田小(大9) — 名倉小(昭8) — 丸山小(昭29) — 雲雀丘小(昭43)



2. 沿革の概要

昭和

29.04 神戸市立丸山小学校として開校。
校舎は名倉小に併設、児童数 532 名。



創立の思い出

初代 PTA 会長 故 上村儀作

丸山小学校ができるまでは、名倉小学校まで通学するので、小さい子供さんは誠に気の毒だった。鷺町・源平町・檜川町の子供たちは神戸電鉄で長田駅まで電車通学するので危険この上なかった。

昭和27年11月源平町の子供さんが長田駅で電車の間に転落し、片足切断という大事故が発生した。こんなことがあって、何としても丸山に学校を建ててほしいという地域を挙げて学校建設の嘆願書を市に提出した。同年12月の市議会で名倉小の分校を建設することの旨がありうれしかった。しかし、28年4月丸山地区住民は、初めから独立校として出発するよう懇願し、その承認を得て現在の丸山小学校を創設することとなった。

昭和29年6月5年生の女生徒が学校の竣工を目前にしながら、丸山駅で軌道に転落し、電車の下敷きになって死亡した悲惨な出来事もあった。現在では幼稚園児も徒歩で通園できる安心な学校になった。(後略)

丸山小学校の開校

丸山は、戦争前は別荘地だったので、住んでいる人もわずかで、学校ありませんでした。だから子供たちは電車、または歩いて名倉小学校や丸山中学校に通学しなければなら

りませんでした。昭和20年、戦争が終わりました。空襲を逃れて田舎に疎開していた人たちが、次々と神戸に戻ってきました。そうすると、住む家がたくさん必要になってきます。そこで別荘地だった丸山地区(丸山小学校と雲雀丘小学校を合わせた地区)にも、どんどん家が建てられました。子供の数も増えました。名倉小学校は、子供たちでいっぱいになってしまいました。2部授業(午前の部と午後の部)をしなければいけないほどでした。そんな中、とても悲しい事故が起きてしまいました。丸山地区の子供が電車通学の途中大けがをしてしまったのです。

保護者や地域の人たちは丸山地区に学校を作りたいと神戸市にお願いしました。市は丸山地区に名倉小学校の分校を作ることで計画を進めていましたが、丸山地区の人たちの願いは「丸山に新しい学校を」ということでした。

丸山地区の人たちの強い願いがかなったのは、昭和29年4月1日のことでした。この日ついに丸山小学校が誕生したのです。

丸山小学校は昭和29年4月1日に誕生しましたが、校舎はその時には、まだ完成していませんでした。だから丸山小学校の子供たちはしばらくの間、名倉小学校を借りて勉強していました。校舎が完成したのは昭和29年11月25日でした。丸山小学校の532人の子供たちは、その日名倉小学校で「お別れの式」を済ませた後、みんなで丸山の新しい校舎に入校しました。

昭和



29.04 初代校長 宮田 静吾着任



第1期卒業生の方のお話

私たちは、昭和29年4月1日丸山小学校の児童になりました。でも、校舎ができていなかったの、しばらく名倉小学校で勉強をしていました。入学式も名倉小学校で行われました。2部授業が行われていましたが、お昼からの授業は、おなががいっぱいあまりやる気が起こりませんでした。帰りの坂道がきつく思われました。

学芸会は名倉小学校がすんでから、名倉小学校の講堂を借りて行いました。11月25日ついに私たちの学校の校舎ができました。小雨が降る中、丸山小学校まで歩いて登っていきました。私にとっては初めて見る校舎だったので、とてもわくわくしていました。運動場がぬかるんでいて、汚れた靴で新しい校舎に入るのが残念でした。何もかもピカピカしていた教室を汚したくなかったのです。

その頃の丸山小学校は、運動場と本館と木造の保健室と体育倉庫だけでした。校門も周りの垣根もありません。音楽会は運動場にステージを作って幕を張って行われました。卒業式も、運動場や本館の屋上で行われました。それでも、借り物の教室で勉強しなくていいし、2部授業でもないので、楽しさでいっぱいでした。

本当に小さな学校でした。でも、何もなかった分、自分たちで作出したものが多くて、たくさんの思い出があります。

昔の学校の近くの様子

現在学校がある場所は、校舎が建つ前、家も田もない木の茂った斜面でした。本館や南校舎あたりは、山の斜面を利用したいちじく畑でした。運動場や観察園があるところは、低い谷で、小川が流れていました。土地が低かったため、運動場は埋め立てて作りました。

その頃、正門から南門にかけて山道がつけられていました。それは、花山町と西丸山町1丁目あたりを結ぶ大切な道路でした。それは、後々まで続き、町の人々の通り道として利用されています。また、そのころ明泉寺町には、牧場がありました(大日寺の東側、荊藻川沿い)。

阪神淡路大震災と丸山小学校

平成7年1月17日、神戸の街を震度7の大地震が襲いました。長田のまちは大変な被害を受けました。丸山小学校にも161名の人たちが避難してきました。

その夜、丸山小学校に避難してきた人たちは、多目的、放送室、なかよし教室、幼稚園の遊戯室、幼稚園の教室などに分かれて泊まりました。

29.11 新校舎現在地に竣工、開校式盛大に挙行



33.04 第2代校長 波多野 正雄着任



34.10 第2次増築校舎竣工（南館完成）

11 第3次増築校舎竣工（南館完成）



36.04 第3代校長 伊藤 重夫着任



37.08 第4次増築校舎竣工（西館完成）



39.03 第5次増築校舎竣工（西館完成）・講堂落成



04 第4代校長 大坪 博着任

11 創立10周年記念式典



40.03 丸山幼稚園併設

第6次増築校舎竣工（本館東）

41.03 第7次増築校舎竣工（本館西）



41.06 運動場拡張工事竣工



43.04 雲雀丘小学校 本校より分離

44.04 第5代校長 柳井寅一着任

45.05 学校施設開放、児童公園として運動場開放



46.04 第6代校長 吉田 哲司着任

47.03 第8次増築校舎竣工(新館)

08 全国優良PTAとして文部大臣より表彰

48.07 簡易プール設置(夏季のみ)

11 創立20周年記念式典(20周年記念碑建立)



49.04 第7代校長 高寺 孝和着任

11 兵庫県・神戸市書写教育研究会開催

51.04 校内心障児学級設置

52.02 体育固定器具設置

12 南門付近校地拡張整備工事竣工



53.03 丸山学園内施設内学級廃止

04 第8代校長 藤原 淑着任

11 運動場改修工事

55.08 学校改修工事 新・本館非常階段設置

12 第9代校長 南上 正幸着任

58.11 創立30周年記念式典



59.04 第10代校長 萩野 隆雄着任

61.08 本館・給食室・講堂の庇工事

62.04 第11代校長 金田 竹三着任

07 南館外壁・窓枠改修工事

63.07 本館外壁・窓枠改修工事

00.04 第12代校長 北 義和着任

06 「丸山学園」との交流開始

02.02 体育倉庫改修工事

03.04 第13代校長 小林 佑示着任

08 講堂縦断・カーテン取替工事

04.07 本館・南館内装改修工事

05.04 第14代校長 熊谷 幹夫着任

10 新館外壁・窓枠改修工事

06.03 高圧電源装置設置及び配線工事

08 講堂屋根及び庇改修工事、西館外壁改修工事

06.11 創立40周年記念式典

07.01 阪神・淡路大震災により避難所開設(8.05 解消)

07 新館周辺・講堂天井復旧工事

08 避難所開設(8.05 解消)

08.04 第15代校長 近藤 慎治着任

05 長田区体育研究発表会

保健室改修工事

09.07 コンピュータ導入授業開始

給食室一部改修

10.04 統計教育 市・県研究指定(2年)

07 新館6年生教室塗装

09 オーストラリア CQ大学から教育実習生

11.06 大雨水害により避難所開設(40名)

10 統計教育 市・県研究指定発表会



- 12.04 第16代校長 土肥 秀明着任
- 11 長田区国語教育研究発表会
- 11 特別養護老人ホーム「すみれ園」との交流開始
- 13.04 新学習システム導入
- 07 正門改修・運動場入口舗装



- 11 神戸市 中ブロック人権同和教育研究会
- 14.04 学校完全週5日制実施
- 07 家庭科室改修工事
- 11 算数科授業研究会
- 15.04 体操服のデザイン一新
- 08 西館1階、地域スポーツクラブ室、学童保育コーナー室へ改修
高学年図書室移設、新館2.4階、本館2.3階便所新設及び改修工事



- 10 小学校英語活動推進事業開始
- 11 南門、防犯カメラ及び感知センサー設置
- 16.02 本校ホームページ公開
- 03 学校評議員発足 正門、防犯カメラ設置
- 04 第17代校長 井上 香代子着任



- 11 創立50周年記念式典



- 17.04 正門・南門オートロック設置 光ファイバー施設
- 19.04 第18代校長 高木 政雄着任
- 11 国語部領域別研究授業
- 12 保健部領域別研究授業 PTA横断幕寄贈
- 20.04 健康教育研究推進指定を受ける(2年間)
- 11 公開学校保健委員会
- 21.11 健康教育研究発表会 校舎改築準備期間
- 22.04 第19代校長 福田 淳子着任



- 06 仮設校舎建設(8/27まで) 引越し移動
- 09 本館・南館解体工事
- 23.12 新校舎棟完成
- 24.01 新校舎使用開始 新館・西館解体工事
- 12 新体育館棟完成
- 25.01 新体育館使用開始 講堂解体工事
- 09 運動場改修工事完成 記念運動会
- 11 新校舎竣工・創立60周年記念式典・音楽会
- 26.03 60周年記念植樹
- 04 第20代校長 山崎 将着任
- 11 長田区体育研究会
- 27.09 閉校記念運動会
- 11 閉校記念音楽会
- 28.02 新校名「丸山ひばり小学校」決定
- 03 閉校式



歴史編



丸 山地区は、やはり古い歴史があります。遠い昔からの歴史の流れが、今の新しい街を生み、発展させています。

ところで、わたしたちの住む町「まるやま」のよび名は、いったいどこから生まれてきたのでしょうか。写真は私たちが毎日のように見ている「聖天さん」です。山の形をよく見ましょう。丸い形をした美しい山ですね。そうです。この山こそ、わたしたちの町「まるやま」の名のおこりなのです。

聖天をまつるこの山は、独立した一つの小高い山なので、大昔の人たちが、おはかをつくとすれば、ちょうどよい場所であったかもしれません。というも、大昔、この丸山一帯を治めていた「長姫」という人のおはかであるという説もあるくらいです。おはかを古墳ともいいます。

その長姫という人は、今からおよそ1750年ほどむかし、神功皇后の時代に、宇奈手の神の斎主として、宇奈手の丘をおさめていました。「宇奈手の丘」それは、長者である長姫が治めていた土地です。現在、会下山一帯のことです。ここに祭られていた宇奈手の神は、今は長田神社に祭られています。

長者というのは、大昔、身分の高いゆたかな人に対するよび名でした。神につかえる長姫が、長者としてここに住み、それに仕える人たちも付近に住んでいました。その長者、長姫の住んでいた所が、現在では、長者町の地名として残っています。

その後も身分の高い、人格のすぐれた長者と呼ばれる人たちがこの丘の上の見はらしのよい所で、その土地をおさめていたのでしょう。このあたり、丸山病院の下の丘一帯を長者が平とよんでいました。こういう人たちのことを、海に近い里に住む人たちから山莊太夫とも、よばれていたようです。

ここに、どうして長者やまた他の人々が住むようになったのでしょうか。それが、この湧き水です。長者が平のすぐ東、現在の丸山学園南側の道路から階段をおりきったところ。一年中、こんこんと清水の湧き出る泉があります。生活には欠かせない清水が、夏の暑さにかれることなく、また冬の寒さにこもらないといえれば、こんなよい土地はないといえるでしょう。

室 町幕府の力も弱まり、戦国時代に入ると、この長者が平も海賊の本拠地となります。神撫山、今の高取山ですが、この山の東下を今もなお強盗谷とよんでいるのがそれです。里も村や港が手にとるように見えるため、船の出入りを見ては手下をつれて、積荷を奪いに出かけたそうです。しかし世の中がおちついてくるといつの頃か、亡んでいったそうです。

道標とは、道しるべということです。この道標はひよどり越えという六甲山脈を南北にはしっている道に、たてられていました。今では、鶯町から里山町へ行く大きなトンネルの入り口にありす。



現在の鶴越墓をずっと北へ行くと、大きな池があります。今は、水をいっぱいたたえています。昔は、水が非常に少なかったため、「水無池」とよばれていました。

その昔、この山道には、山賊がひそんでいて、三木と兵庫の関を旅する人たちをおどし、持ち物や着物まで取り上げてしまし、中には殺してしまって、この池にほうり込んだということです。鶴越墓の西側の山には、殺された人たちの例をなぐさめるかのように、南無阿弥陀仏ときざまれた大きな石があります。

むかし、日本がまだ源氏と兵士とで争っていたころ、源氏の大將源義経が、兵士を京都から追ってきたときに、この地蔵の前を通ったということです。この地蔵は峠の地蔵、手向の地蔵ともよばれて、古くから人々に信仰されていました。

こ の峠の地蔵のすぐ横にあるのが、義経の馬をつないだといわれるこの松です。今ではもう枯れてしまっています。義経がここを通ったときは、若い元気な松だったのでしょう。松に話ができるのなら、そのときの義経のようすをきかせてほしい気がします。

少し岩の形がくずれてわかりにくくなっていますが、それでもじっと気をつけて岩の形を見ましょう。そうです。かえるです。2匹のかえるが仲よくすわっている姿が見えます。それで昔からこの岩をかえる岩とよぶようになりました。

駒つなぎの松で一休みした義経は、さらにこの岩まで兵を進めてきましたが、平氏の陣をさぐらせていた家来の黒井景次の知らせを受け、もう一度作戦をねりなおしました。その場所が、このかえる岩のところ。です。

そうして、いよいよ鶴越のさかおとし、一の谷合戦が始まるのです。このときは、この神戸の町全体が、源氏の白旗と平家の赤旗でいっぱいになったことでしょう。

ひよどり越えという坂道は、その昔、三木と兵庫とを結ぶ重要な道で

した。現在、里山町のあたりにその名まえが残っています。義経が通った途中に、ひよどり越えのさかおとしとよばれているところがありますが、それがこのあたりだろうと、いわれています。

古道越という山陽道に通じる道に、立てられていた道しるべです。現在では、明泉寺町の大日寺の中に道しるべとしてではなく、古いむかしの様子を物語ってくれるものとして、やさしい花に囲まれておかれています。この古道越というのは、昔の旅人が丸山から、多井の畑へ抜けて、山陽道に通じる道です。



昔は、この山の頂上に大日如来をまつた弘法大師ゆかりの明泉寺という大きなお寺がありました。

このことから、今の丸山という名まえが生まれたと言われています。

源平合戦のときに、平家方の大将で、平盛俊という人がこの古明泉寺に陣をしいていました。しかし戦いに敗れ、明泉寺も焼けてしまいましたが、のちになって助かった仏像は、今の丸山寺に移されたということです。

平清盛が、ふもとの水田作りのために、それまで丸山聖天のふもとをまわっていたかき川の流れをまっすぐにかえるために、台地になっていたところを掘り下げて、水路を作りました。それがもとで、堀切という名が生まれ、またこのような滝ができました。

生田の森からにげてきた平氏と、夢野からにげてきた平氏が、東と西からおってきた源氏に、はさみうちされ、この滝見橋のあたりではげしい戦いとなりました。

生田の森から逃げてきた平知盛と、平知章の親子が、源氏の追手においつかれました。そのとき、子供の知章が、おとうさんににげてもらうため、自分から源氏の兵に戦いをいどみ、この滝見橋附近で討死しました。

さきほど話した知章の墓です。自分の命を捨てて、おとうさんの知盛を救った知章の墓です。現在は、丸山寺の中にあります。一番上に書いてある「孝子」というのは、今の話のように、孝行な子供という意味です。

朝廷の警固のための武士として、力を強くしていった平氏も、平清盛の頃は、「平氏でないものは、人間ではない。」とまでいわれるぐらいに、その勢力は強かったのです。

古明泉寺に陣をしいていた平盛俊も、これ以上戦ってもだめだと考え、退却をはじめました。そのとき、平盛俊は、自分の家来を先ににがしてやり、いちばん最後に自分にもにげはじめました。その途中、名倉のあたりで源氏の武士の猪股小平六郎剛という人と出会って一騎打ちとなりました。剛が盛俊をゆだんさせておいて、そのすきに盛俊をさし殺したということです。

口一里と中一里の名まえは、海岸から一里のところまでの山林が口一里、その奥が中一里、さらにその奥が奥一里となっていました。これは、今から1200年前の奈良時代の土地のくざりかたにもとづくものといわれています。

口一里と中一里のさかいは、ちょうど雲雀丘小学校と雲雀丘中学校との境の石垣がそうです。

わたしたちは、この丸山がもっている昔からの色々な歴史と、それらが今の丸山に、どのようなつながりがあるのかも、勉強してきました。私たちの身のまわりのたった一つの石や、たった一本の木が、遠い丸山の歴史を物語ってくれることがわかりました。千何百年の間に積み重ねられ、育てられてきた丸山をもっともっとだいじに育てていきましょう。



現代編



丸山の位置について、地図をひらいてみることにします。丸山は、ちょうど六甲山の西のはしと長田の市街地とはさまれた谷間に位置しています。

長田の北の方、丸山の西にある嵐ヶ丘よりながめたものです。中央部の山が、丸山聖天です。そのむこうに神戸港を一目で見ることが出来ます。

こんどは、南側名倉町方面から見てみましょう。中央部に山が見えます。どちらから見ても丸い山です。どちらから見ても丸い山です。いわゆる丸山という地名は、この丸い山をさして、「丸山」といわれるようになったそうです。

高取山から見た丸山の町です。まわりが山に囲まれており、その谷間に、家がたちならんでいます。ちょうどすりばち状になっています。その谷の傾斜にそって家がたくさん建ちならんでいるため、坂の多い町となっています。

丸山の南側を見てみましょう。堀切町あたりです。左右の山に囲まれた谷の出口にあたり、丸山と神戸の市街地を結ぶ唯一の出入口となっています。



右の山が高取山で、左に少し見える山が丸山です。ちょうど、この谷間になっている所が、さきほどの丸山と神戸の市街地を結ぶ出入口となっている所です。これでよくわかるように、その出入口が非常にせまく、しかも一つしかありません。そのせまい出入口から奥にすりばち状になった丸山の町が広がっています。これが、朝と夕方のラッシュを作り出している原因でもあるわけです。

さらにまた、谷間の傾斜地を利用して、宅地造成が進められています。出入口が開発されないまま、このように奥へ奥へと宅地が広がっています。家は必要ですが、これによってまたいろいろな問題も出てきます。



雲雀丘、麓町、萩乃町、花山町、鹿松町の町名の由来をお話することにしましょう。昔は、いずれも口一里山に属していましたが、麓町、萩乃町、花山町は、昭和16年3月に長田村字口一里山からそれぞれ独立した町になりました。うぐいすが鳴き、ひばりがさえずり、はぎが咲き乱れ、山には花に満たされた別天地という願いをこめて名付けられたといわれています。

さらに、丸山の北をうつしたものです。ここには、まだ昔のおもかげが残っています。右側の小高い山が、昔このあたりに古明泉寺の陣が、あったところと



いわれています。またその山にそって源義経のさかおとしがあったところといわれているのもこのあたりです。今では、その近くに雲雀丘小学校、雲雀丘中学校が建てられています。さらに奥へ歩いてみましょう。このあたりが、義経のさかおとしがあったところといわれています。ひよどりごえといわれ、昔はひよどりがい道とよばれていました。このかい道をさらにくだと旧ひよどりごえ小学校のところへ出ます。



大 日如来をまつっていた明泉寺は、現在の所ではなく、もとはこの地に建てられたといわれています。ちょうど右の方にこんもりとした丘がありますが、あのあたりがそうだとされています。大日如来をまつっていたということで、このあたりが「大日丘」と名付けられたそうです。今では、大日丘住宅が建ち並んでいますが、昔はこのあたり、長田村から白川村や大山寺に通じる長坂越えといわれ、播州への交通路であると同時に、ひよどりごえ本道の支道でもあったそうです。

昔は、源平合戦ゆかりの地であったこの丸山も、今ではこのように、中学校、小学校が建ち並んでいます。

これは、中学生が朝礼をしているようです。雲雀丘小学校と雲雀丘中学校との対面式の様子です。心の交流を求めて、小学校がなかよくしようとするあらわれの一つです。

雲雀丘小学校の校庭と丸山小学校の校庭です。

丸山の人口もずい分とふえ、雲雀丘中学校も教室がたなくなりました。そして、校舎を増築しています。一時は、雲雀丘小学校の教室をかりたりすることもありました。



私 たちの住んでいる丸山の町づくりは人づくりといわれますが、丸山を見わたしてみると、まず子どもの遊び場がありません。なんとかできないものだろうか、町全体の人々が考えはじめました。すると、ある人が土地を貸してくれることになりました。いわゆるちびっこ広場の誕生です。

しかし、整地はお母さんたちの手によって、行われました。みんなで汗を流し、手に豆をつくり、力を合わせ、このように立派なものができました。丸山には、ちびっこ広場が全部で15か所ほどありますが、ちびっこ広場作りへの努力は、丸山の地域活動の原点となりました。鉄棒、すべり台すべり台、ぶらんこは、神戸市から贈っていただいたものです。

ちびっこ広場の発展は、さらに子ども中心の活動へと結びついていきました。中央部に池がありますが、これはみなさんもよく知っている



る大池です。大池のまわりでは、夏になればキャンプがさかんに行われるようになりました。これはキャンプびらきです。おもにこの男の人たちの指導によって、いろいろなキャンプ活動がなされていきました。大人たちも子どもたちと一緒に、青空のもとで一日をすごします。

これは、長寿村です。長寿村では、お年よりの人たちの手によって野菜を作ったり、花を栽培したりしています。いわゆるお年よりの人たちも生産活動をしているわけです。これは、お年よりの人たちがたんせいをこめて作ったじゃがいもです。それを保育園の子どもたちがいもほりをしているところです。これでもわかるように、長寿村は、お年よりの人たちの生きがいをもつ場でもあるわけです。

昭和50年9月15日の敬老の日に、丸山小学校校庭において、すもう大会が行われました。子どもたちが中心となり、お年よりの人たちをおまねきしたもので



す。お友達がすもうをしています。ここでも子どもと老人の交歓がうかがわれます。子どもたちのすもうの様子をいっしょうけんめい見ておられるお年よりの顔をみてみましょう。子どもと老人のつながりが、もととなって、町全体の人づくりへと、発展していくのではないのでしょうか。

人づくりの土台である交歓の場を、さらに広げていったものです。これは、丸山小学校の子どもと丸山小学校の子どもと丸山学園の子どもとの交歓の場です。学習、運動、家庭環境とそれぞれちがっても、同じ丸山で学ぶ子どもたちどうしのはだとはだのふれ合いこそ、大切ではないのでしょうか。そして、子どもたちどうしがなかよくしようと努力する姿こそ一番大切な土台でもあります。

こ の写真でもわかるように、丸山にはまだまだ緑が多く残っています。丸山に住む人々は、では何とかしてこの緑を守りたいものだと考えるのは当然のことです。

そこで、みんなが一人10円ずつ出し合って植樹を始めました。各団体の努力で、この植樹もずっと続いています。植樹をするということは、いわゆる丸山の開発にもつながるわけです。これは、雲雀丘中学校のある斜面に生徒たちが植樹したものです。今はそれもこのように成長しています。大半の木が切られていく今の世の中で、植樹をすることにより、このように大きな木がどんどんふえていってほしいものです。

一人の力ではだめでも、このようにみんなが助け合い協力すれば、こんなに立派な橋ができるものです。おらが作った橋なので、おらが橋です。



これは、みなさんもよく知っている市バスの丸山停留所を作っている様子です。以前のバス停は、古ぼけたものですが、今では立派なバス停ができています。これも丸山に住む人たちの協力の表れの一つです。みんなの力が一つにまると、こんな立派なバス停ができあがりました。



丸山小学校の児童数と雲雀丘小学校の児童数をあわせると、昭和29年では549名でした。それが40年前後から急に増え、49年では児童数も2,432名に増えました。はじめに比べ児童数だけでも1,889名も増えたということは、丸山全体の人口が大変多くなったことを表しています。このように人口が急に増えたことは、大変うれしいことではありますが、同時にまたいろいろな悩みが生まれてきます。その一つが道路の問題です。

はじめにも話をしたように、丸山から長田へ通じる道は、一つしかなく、その上まがりくねっており、また道幅がたいへんせまいという悪い条件がかさなっています。

朝のラッシュ時の車の停滞ぶりです。やっときたバスにも乗れないことが、しばしばあります。私たちの最も大切な道路問題が解決されないまま、奥へ奥へと開発されたところに、大きな問題が残されたようです。

丸山地区のかかえている問題のもう一つが、住宅問題です。人口がふえてくると、山の斜面にそった危険な場所にも建てなければならないということです。

このように、丸山地区のかかえている問題で、まだ解決されていないことがたくさんあります。このようないろいろな問題を話し合う所が、このコミュニティーセンターです。このセンターは、残されている数多くの問題を話し合う所だけでなく、いろいろな方面において、他の人たちにも気軽に利用できる所でもあるのです。

この写真のように、いつまでもみんなが手を取り合って、丸山に住む人たち全部の心が一つになり、明るく、住みやすい、そしてだれからも愛される丸山にしたいものだと思います。そしていつまでも心のふるさととして、私たちの胸に持ち続けたいものです。



<資料>

「わたしたちのまち 丸山」

昭和52年10月28日発行 丸山地区小学校教育研究会 編集

終わりに

閉校という丸山小学校の歴史の1ページに「記念誌を残したい」という強い思いをもって編集を進めてきました。資料を集めていくと「丸山音頭」のレコードと当時の新聞記事が出てきたり、丸山地区小学校教育研究会編集の昭和52年作成の社会科スライド「わたしたちのまち丸山」が出てきたり、私の母が昔若かりし頃にこの地で過ごしていたころの数々の古い写真が出てきたりしました。見せるととても懐かしんでいました。特に「丸山音頭」は、丸山婦人会の方々のご協力で今年の運動会で地域の方々と全校生と一緒に踊ることができました。閉校の年のよき思い出となりました。

今回の発刊に当たり、過去の周年記念誌等の中からも、たくさんの記事を掲載させていただきました。その中でも、特に開校当時のお話にはとても興味をもちました。丸山小学校の誕生には、数多くの方々の思いが本当に凝縮していたことを初めて知りました。そして、いろいろな方々の努力と希望によって、この丸山小学校は支えられてきたのだと分かりました。

平成28年3月31日をもって「丸山小学校」は幕を下ろします。そして4月1日からは新たに「丸山ひばり小学校」として出発します。いつまでも「丸山は一つ」です。この閉校記念誌「ありがとう丸山」を子供たちがいつまでも懐かしく手に取り、世代を超えて丸山小学校の思い出が家族共通の話題に上れば幸いです。

子供たちが丸山小学校で育まれたことに誇りをもって進んでいってくださることを願っています。編集に携わってくださったたくさんの方々のご協力誠に感謝いたします。

教頭 寅屋 誠



丸山小学校キャラクター【まるやマン】

(まるやマンのいわれ)

2012年丸山小学校60周年を記念して、当時の校長先生、福田淳子先生が全校生に呼びかけ、児童からイラストと名前を募集し、完成させた。

頭の上にヒヨドリが乗り
マントには5つの「あ」

あいさつ
ありがとう
あたたかいことば
あんぜん
あとしまつ
が書かれている。

丸山の星からやってきて
2016年春に、丸山の星に帰っていく。



発行

神戸市立丸山小学校

〒653-0874 神戸市長田区西丸山町3丁目2-1

電話 (078) 691-8552

FAX (078) 691-8553

神戸電鉄丸山駅 西 800m 市バス④系統花山1丁目下車

印刷 水山産業株式会社